



国立国会図書館 釜ヶ淵水増石川 3編 208-734



ガラス使用



国立国会図書館 釜ヶ淵水増石川 3編 208-734

ガラス使用





花笠
 文系化
 一勇齋
 國芳
 45.7.12
 購求
 初編上





手取金おの口と口のけ出で釜が淵の昔談か釜入の噂う。齋日を
 待小僧との由。地獄の釜の中が見え。釜の前か三枚子と持る。其
 其評判を慕へぬ。釜の鳴の吉言とまれ。釜の同釜多國芳り。筆
 たのみ湯起證のる釜の底を探り。釜の甑を敲く。飯釜の善悪
 を試る。おま。芳街小おまの損る休日あり。釜小四釜で十二釜と分福
 茶釜の變化を幸ひ。釜屋堀ふ愁を逃れ。郭巨が釜のり出と古卿を語る。釜
 釜光り釜の自慢へ更なされね。在合の釜亦が本を種としか。湯花の釜
 の火。釜と作とる言は。火入の釜の少きも用心水の大金と。月夜に釜乃
 や。釜屋の養生を加へ釜おりの加護を祈り。我家樂の釜か。地金を
 磨く。釜の由來と命。梓元が釜の下を販さんとする。為る。と。し

嘉永四辛亥年夏日

花笠文京



釜の淵の水増
 石川
 花笠文京
 一勇多國芳画





實^{とら}石川五右衛門
中納言氏定郷

東井
松^の花^の袋^の入り
葛^の代^の出^のり
萬^の葉^のや^り



久^の吉^の郎^の
木^の下^の藤^の吉^の

石川村^の
次^の農^の夫^の
衛^の左^の門^の







なつ子さのめいさ
 したのめいさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ

そのまを
 かくていさ

八人のあま

つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ

そのまを
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ

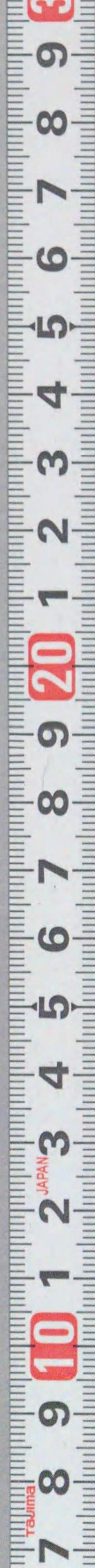
そのまを
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ

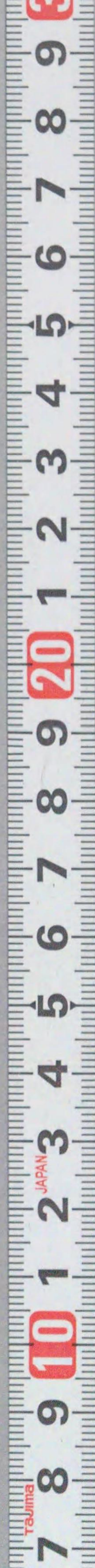


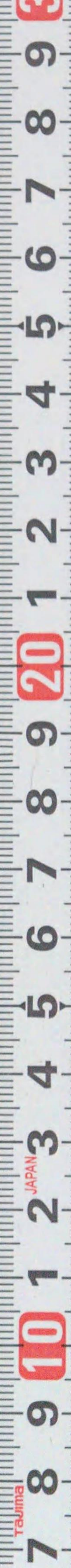
そのまを
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ

作者曰

そのまを
 かくていさ
 つらおやうさの介
 友らちやあゆみ
 このあめさひつ
 かくていさ



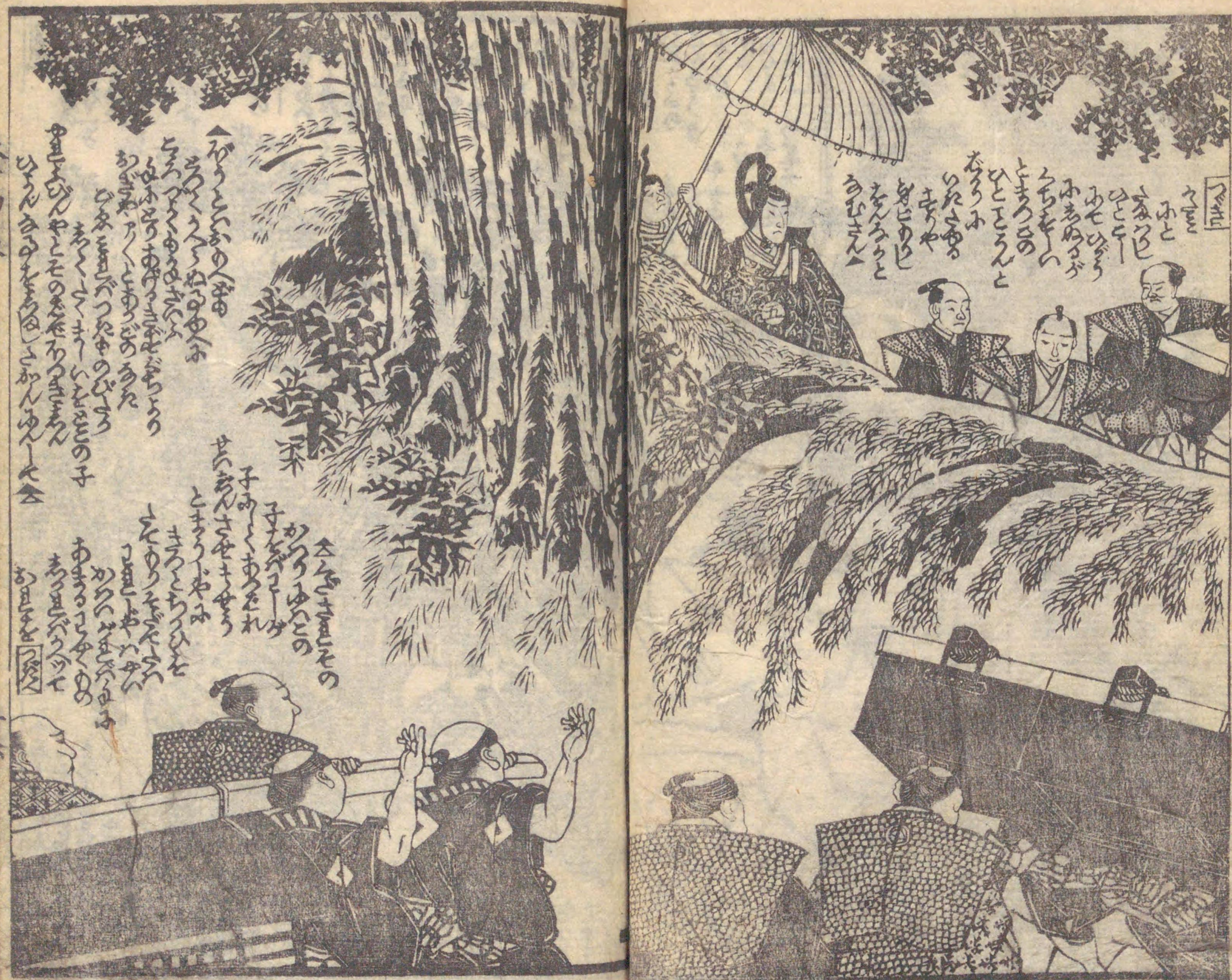




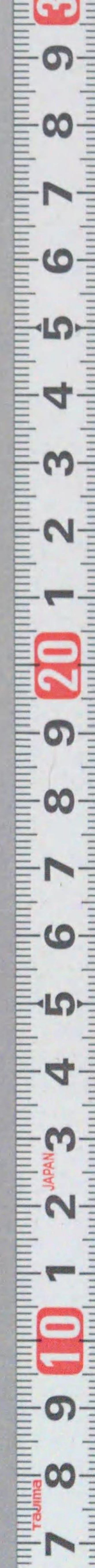
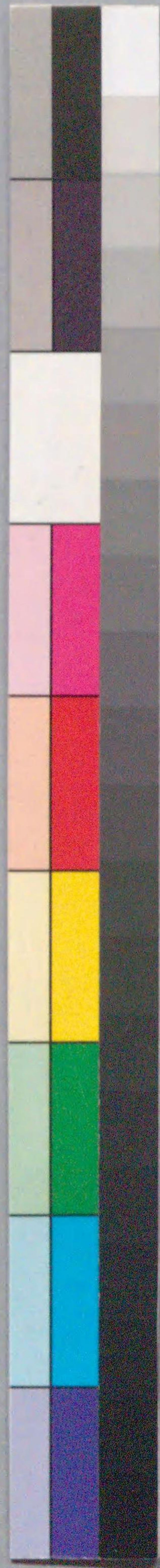


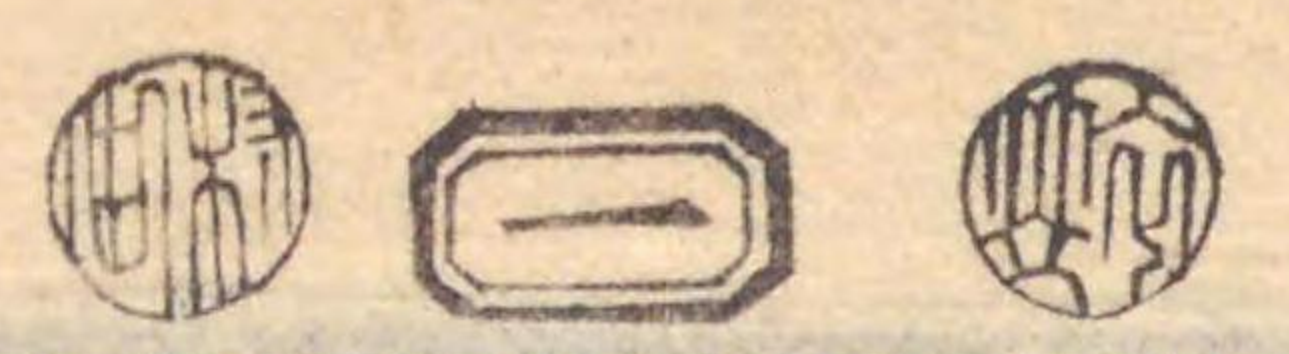












一名 鳴響音金由来二編序
 夫金の用ゑる方戸一日も缺くとも鍋の金の妻小等く鍋金揃ふ宿這入
 十千万兩の部限でも金原身代の根元より日小三度金の尻を焼て普く天下
 平あり。女は時ハ民亡ぶ強てかけハ驕奢ハ近ハ何某候の曰ハ常金の
 隠居ハ金の辺を放しと。抽金をわめて節儉を守り金を覗く姑薪の
 多少を論トて尻の早い婢を戒む最愛の美妾白粉の寵元が縁者忠お金を
 起まは合あり。塩金を庭小統く大臣の故吏みだ立る體の金一斗も焚飯金
 も鐔なりれど金との入字ハ二。金屋武兵衛吉三が金を飾る人々も不及
 金と寄合眉間尺金の座の京地名彼殘り金拂ひ金小残りのあるまの
 頼み又其金の飯粒を拾ふふん

花笠文京戯題

嘉永四辛亥年仲夏

水曾二編



石門
 二層
 上
 笑壽花持

茶
 み
 只

只
 十方幾画



二編



修理之助 勝車

石川五右衛門

岩木 藤馬





水曾二編

子孫
 親者
 生ん
 知ん
 松園
 梅彦

一子
 五郎市

滝
 女房

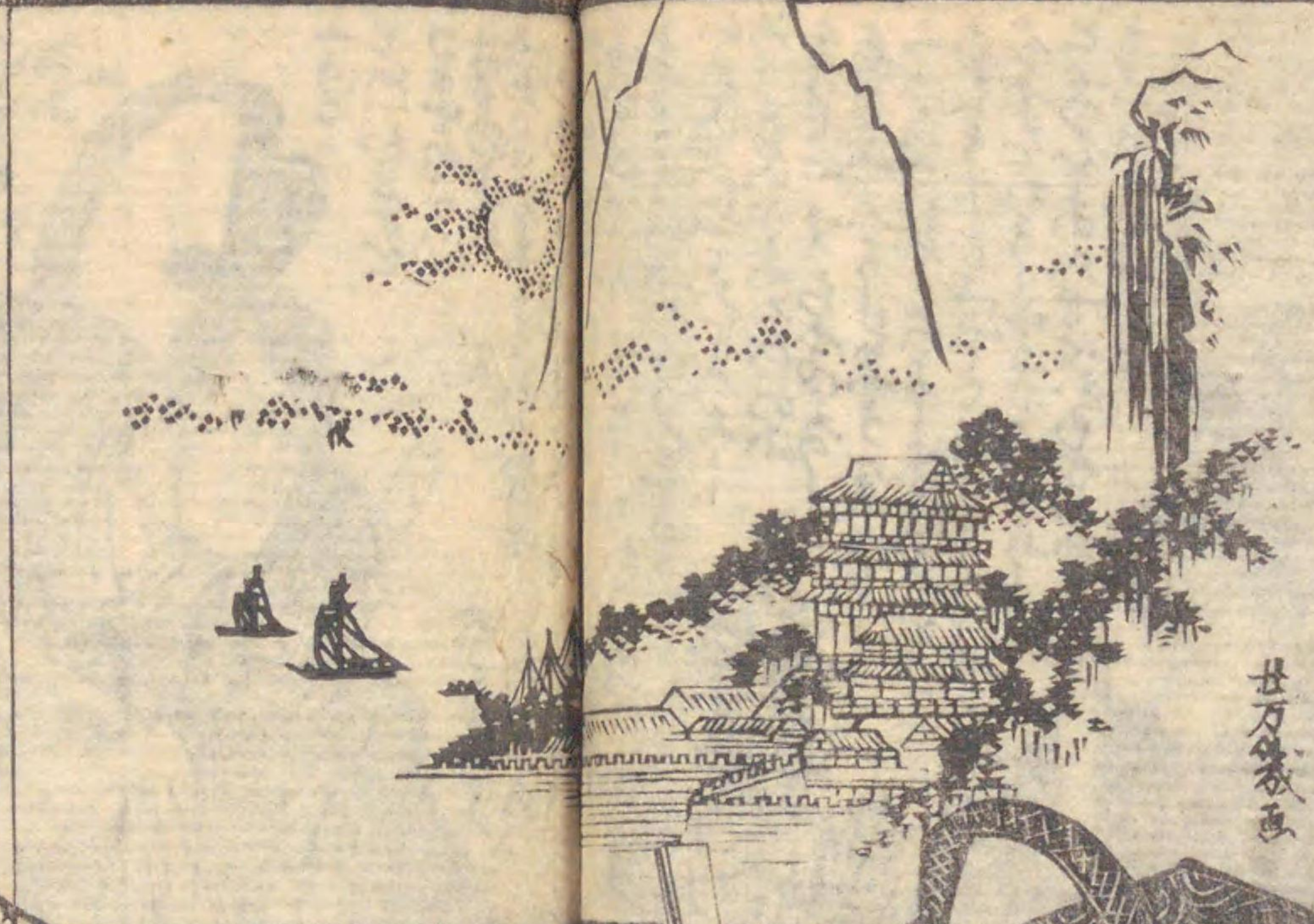
再出
 石
 五川
 右衛門

水曾二編





Vertical Japanese text on the left side of the top panel, likely a chapter heading or introductory text.



Vertical Japanese text on the right side of the top panel, possibly a dialogue or narrative text.



Vertical Japanese text on the left side of the bottom panel, continuing the narrative or dialogue.

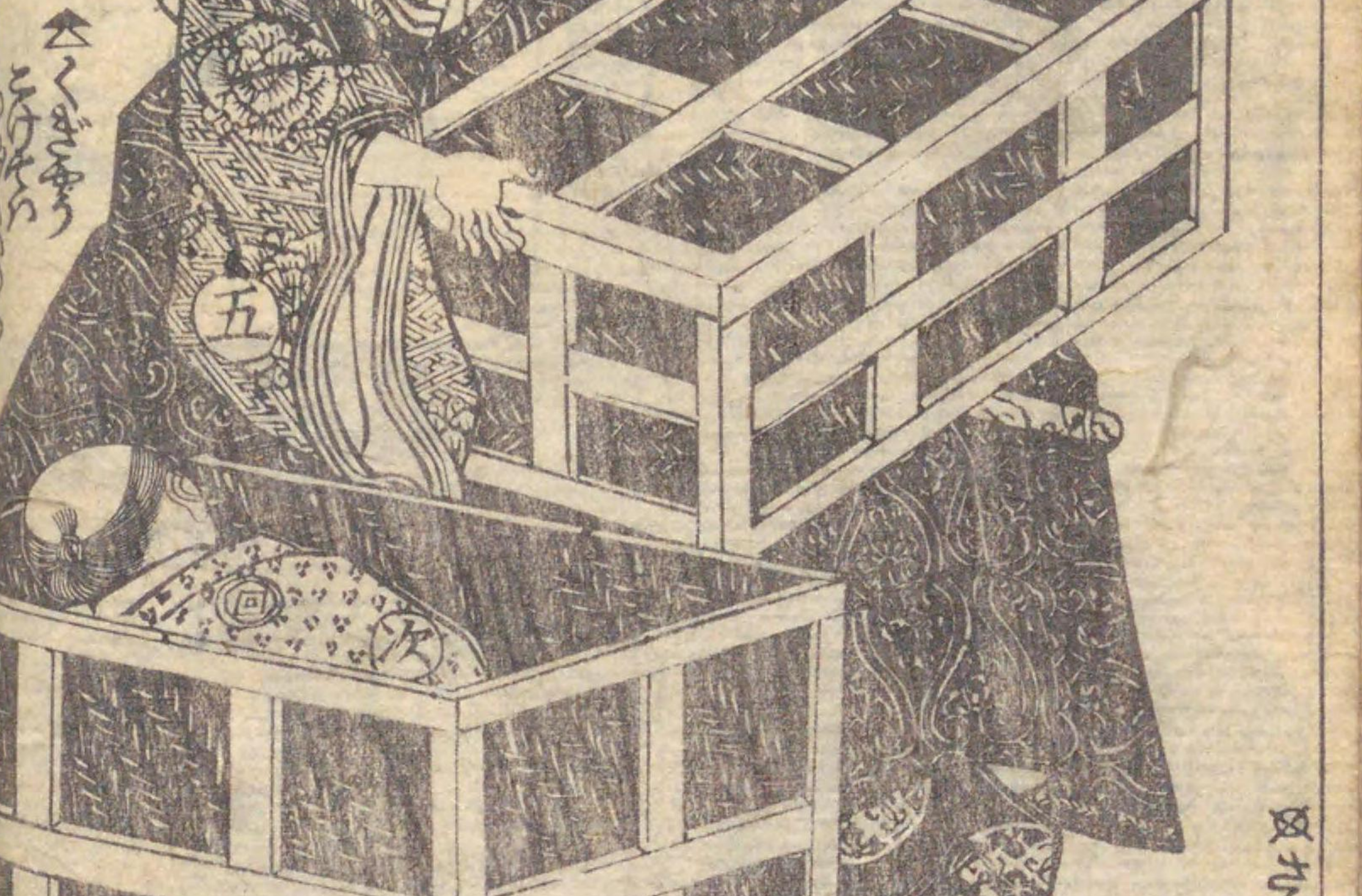
Vertical Japanese text on the right side of the bottom panel, continuing the narrative or dialogue.

Handwritten Japanese text in the upper left section of the left page, including a small square icon at the top center.



Handwritten Japanese text in the lower left section of the left page.

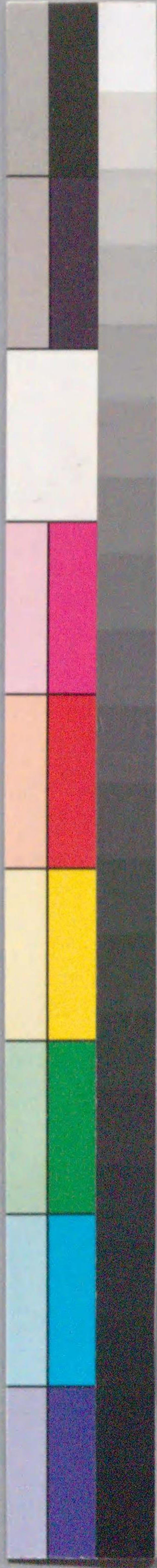
Handwritten Japanese text in the upper right section of the right page, above the illustration.



Handwritten Japanese text in the lower right section of the right page, below the illustration.









大曾二編

又或二編



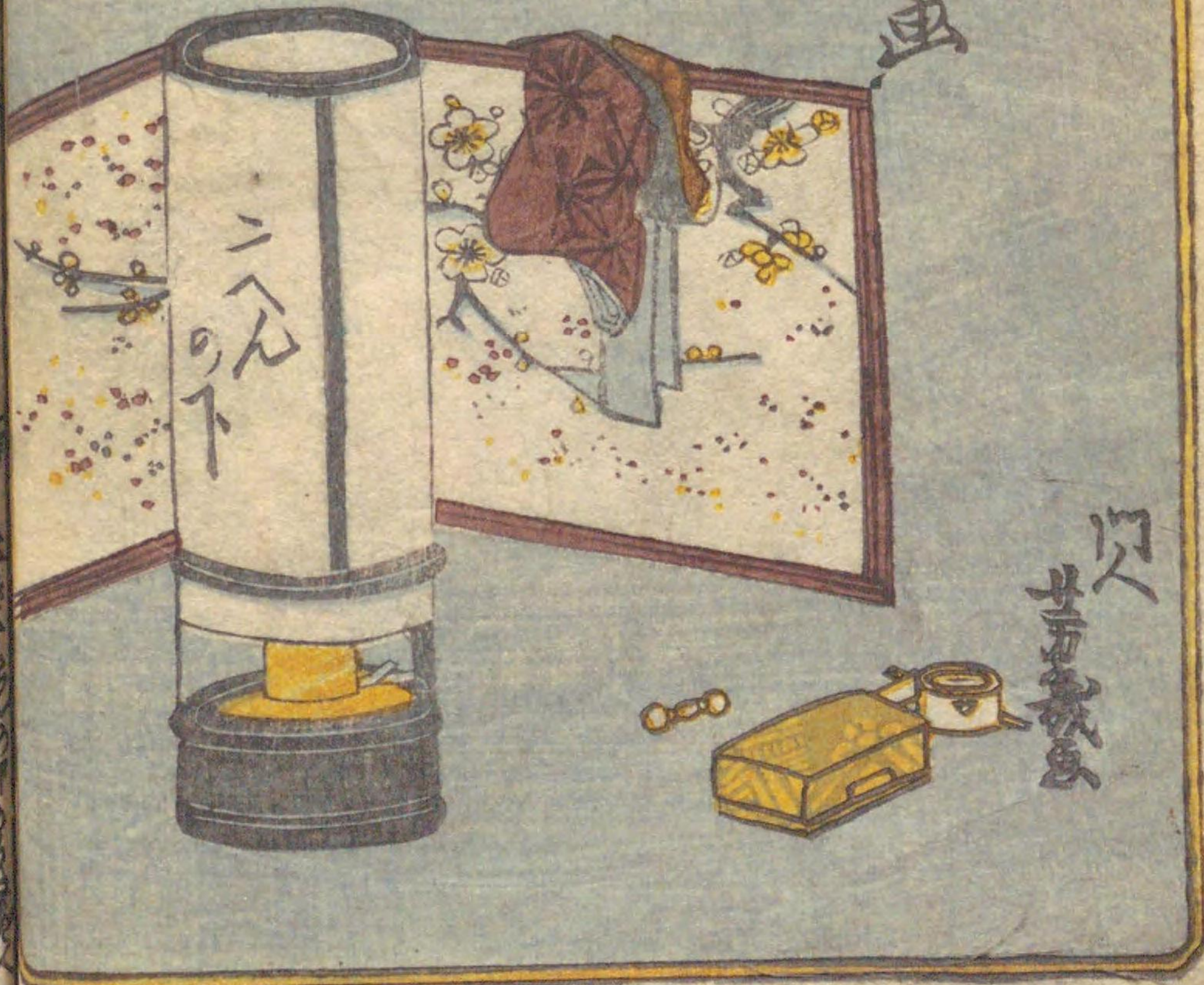




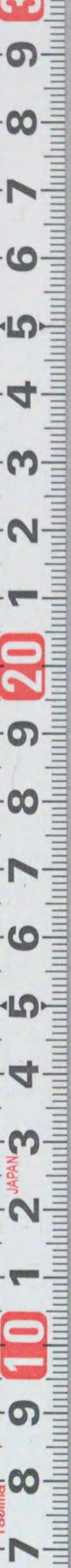
釜ヶ淵
水増石川

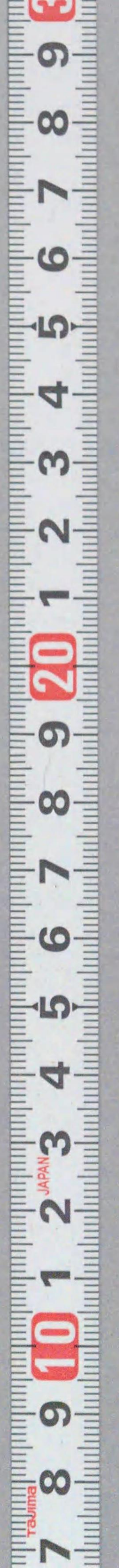


文系作
國芳画
糸昇
峯板



火
井戸敷





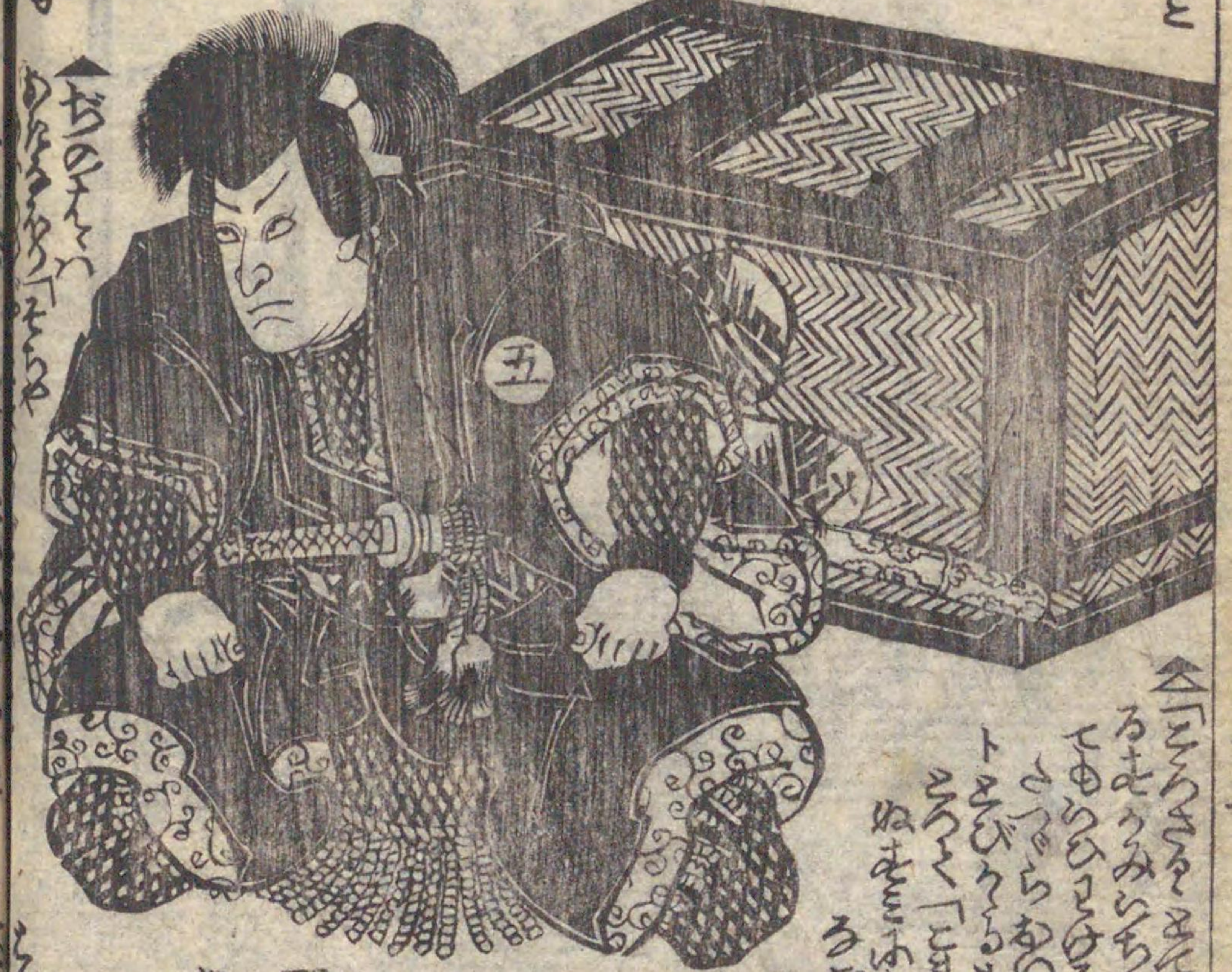


さあぬ夜
うらぬんゆ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ

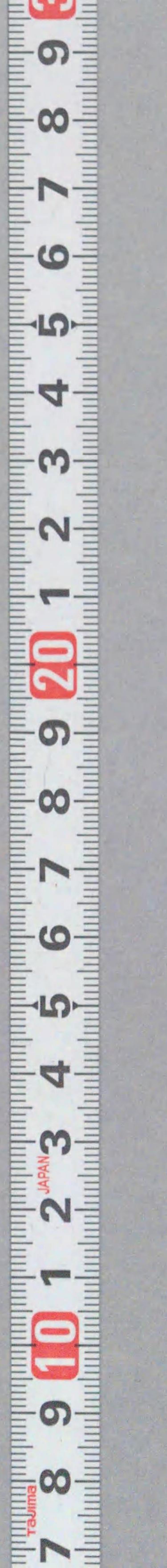
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ

あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ

あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ



あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ
あつたをひ
わらふをひ





釜ヶ淵二編

十六



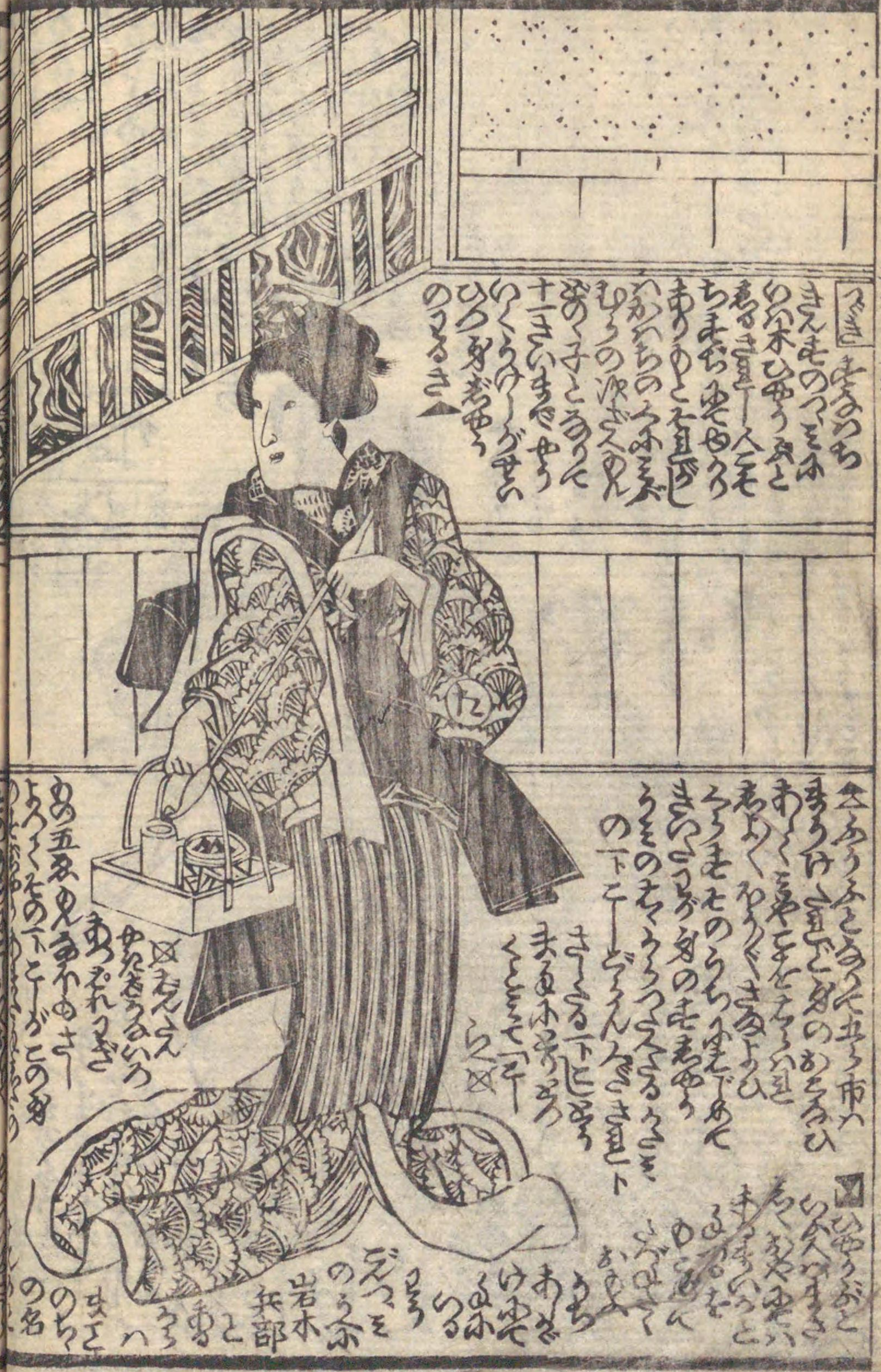


あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと

金世二巻

十九

あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと
あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと
あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと



あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと

金世二巻

あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと
あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと
あつちのふ
ひこそま
あちあち
ねまびとの世
こころのま
あつちと



花笠文京校閱



ついでに... 花笠文京校閱... 花笠文京校閱... 花笠文京校閱...

一勇齋國芳画

一勇齋國芳画... 一勇齋國芳画...

誠忠 大星 誨

初編 二編 三編

柳下亭種員著作 香蝶樓豊國画

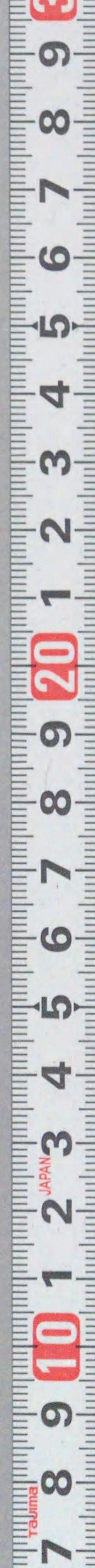
四十七士... 誠忠 大星 誨... 柳下亭種員著作... 香蝶樓豊國画...

地本錦画版元

錦昇堂

東比壽屋庄七梓

東都照降街北側





三編上

錦昇堂板





唐山の緑の林と称へ皇國の白波と云和漢子の他の物を
 奪ふ族を以ての雅言なり人の詠を襲ふの成歌盗人等
 解め他吟を生で用ゆる点取矣句三十一字十七文字古今來
 同案類句あた支不能所謂濱の真砂子のつたけらが如し
 其まろと云詞小因と國小盜賊蝮虫捕盡せふつはね石川
 五空門が一代の栄枯得失金煎の大尾まて三編を全部や
 國芳生が筆小あやめ支並木宗輔と下め笛躬千柳が徒若
 靈ある吾脚色を奪ひてと見咎る物さこの成物さる盗賊の
 文切形是れ貞子共しほしとや答へんのみ

花笠文京戯誌



嘉永四年辛亥年晩夏望

八巻前二

谷があら
 こまひか
 石川
 きん
 篇上
 文系
 玉
 よ



魚比屋

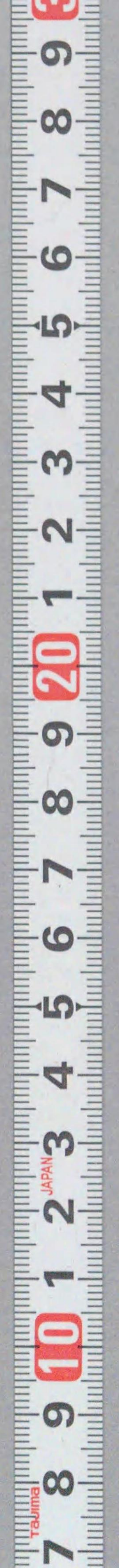
よし





梅暮里
谷我
對面
世
我
色
東

谷我





Handwritten text in the upper left corner of the left page, written vertically in cursive.

Handwritten text in the lower left corner of the left page, written vertically in cursive.



Handwritten text in the upper left corner of the right page, written vertically in cursive.

Handwritten text in the upper right corner of the right page, written vertically in cursive.

Handwritten text in the lower right corner of the right page, written vertically in cursive.

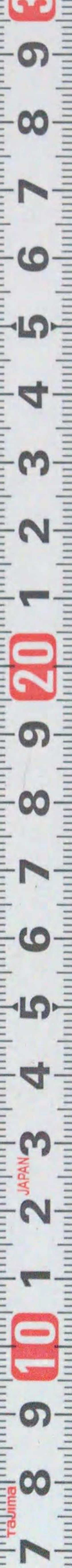


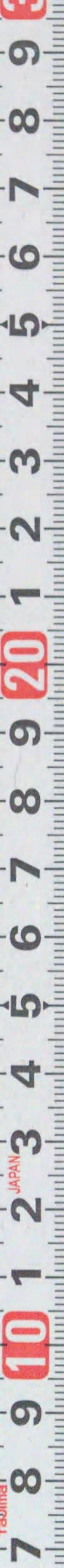


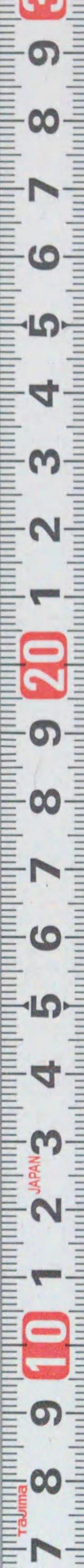
Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary. The text is written in a cursive style. On the left side, there is a small vertical label: 五 (5). On the right side, there is a small vertical label: 市 (Ichimaru).



Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary. The text is written in a cursive style. On the right side, there is a small vertical label: 三 (San).

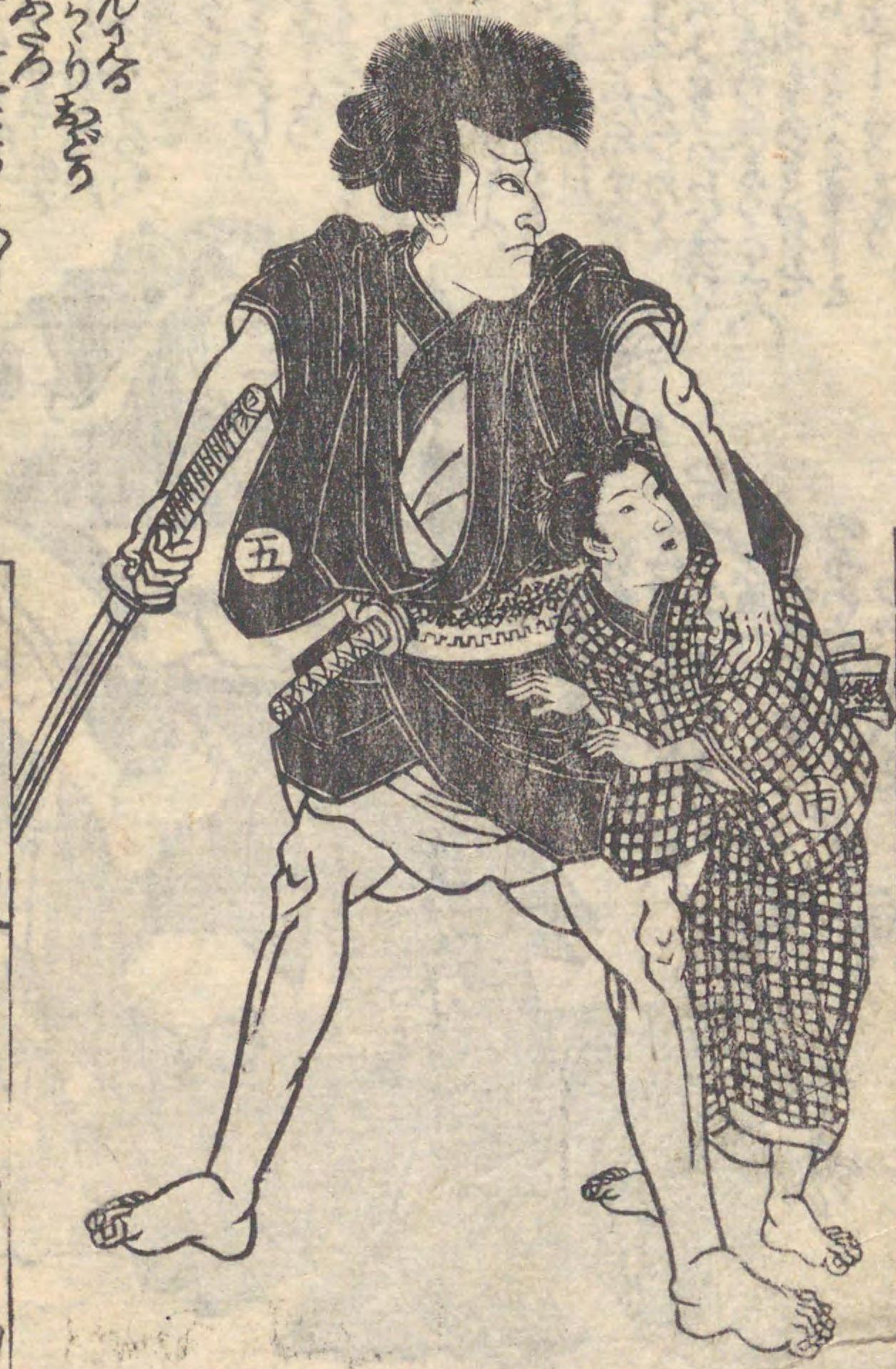






釜ヶ淵三

花笠文京関



一勇齋國芳画

十勇士尼子礎

初編 柳下亭種員著作
二編
三編 香蝶樓豊國画

所謂尼子斐名の十勇士ハ山中鹿之助五月早苗之助大谷古借之介
早川點之介横道兵庫之介寺元生死之介秋吉春之介藪中次之介
高橋渡之介荒浪碓之介等則是ナリ名は是の如くはもて年月を用ひて
伏と討勇と題して状怪と退治一此他仁義忠孝信面々得意と
不ありて百折千蹇の苦勞と経尾つひのたが小集會まうやと最面白く
綴る策子なり發圖と待えて高評と
あつらんのを只等々奉希而已

地本錦画版元

錦昇堂

惠比壽屋庄七梓

東都照降街北側





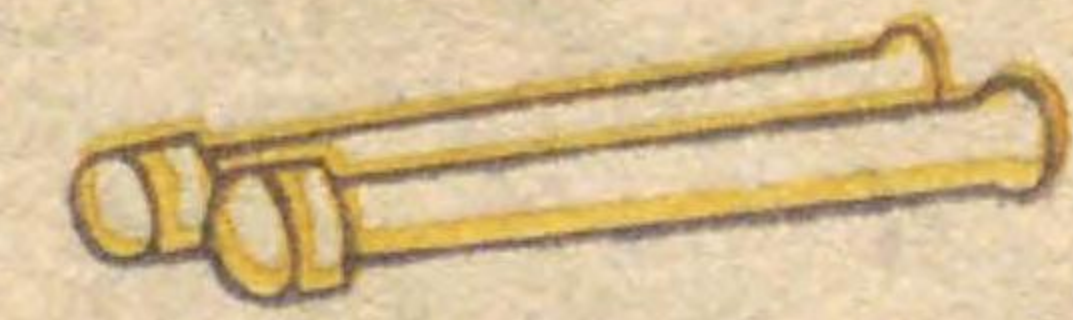
文京作
國芳画



回
の
り
の



之編
下巻
終
巻

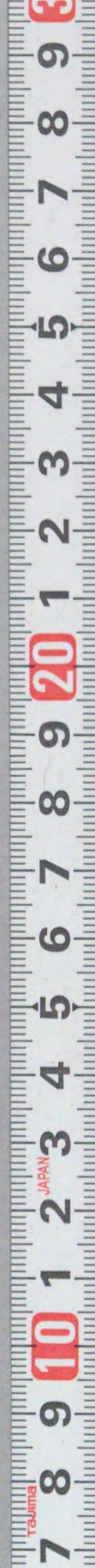


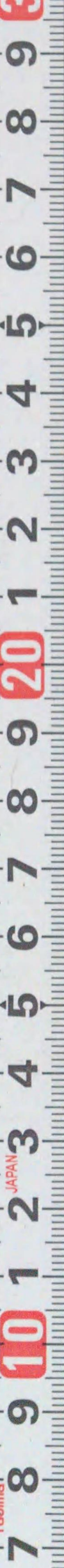
Handwritten Japanese text in vertical columns on the left page, including a small illustration of a woman and a man in the lower half.









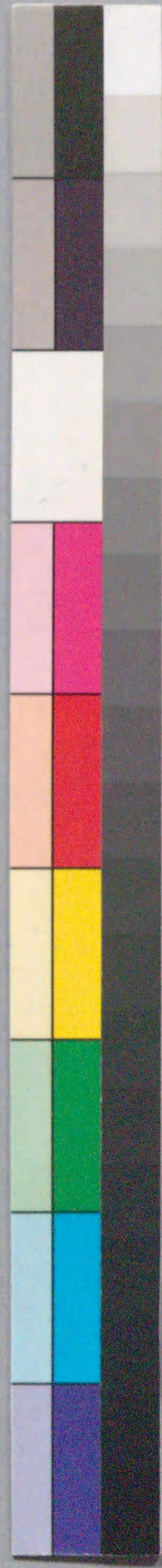






Vertical Japanese text on the left side of the illustration, likely a chapter heading or descriptive text.

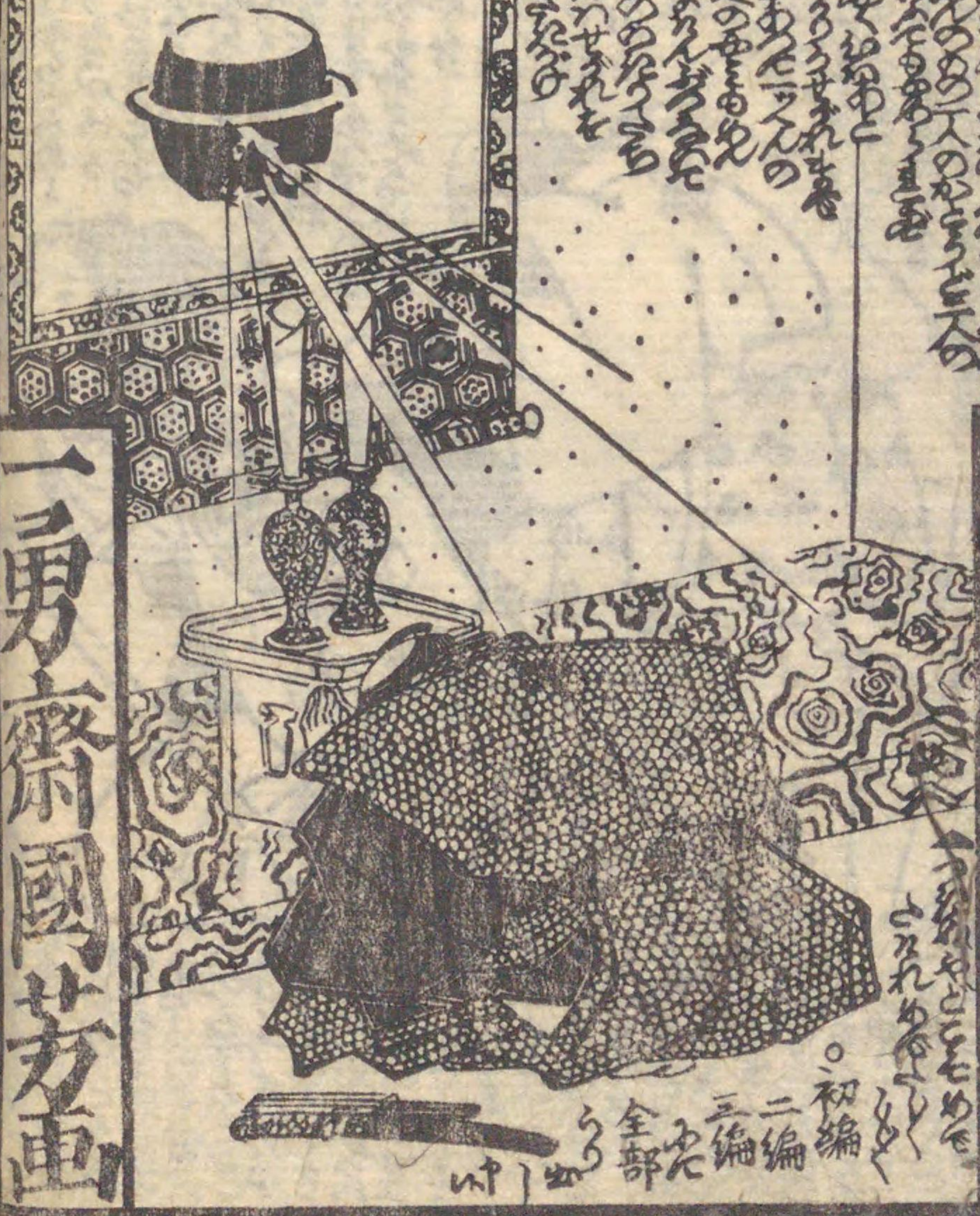
Vertical Japanese text on the right side of the illustration, likely a chapter heading or descriptive text.





花笠文京校

花笠文京校の序文... 花笠文京校の序文... 花笠文京校の序文...



一勇齋國芳画

誠忠 大日生譚

初編 二編 三編

柳下亭種員著作 香蝶樓豊國画

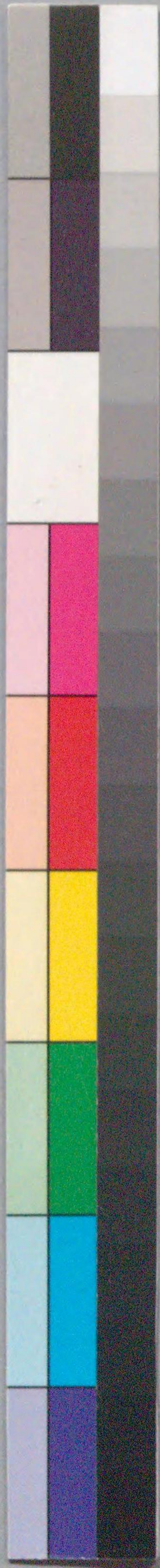
四十七士の復讐の事... 此物語の又更... 手と積で稿... 殊説多... 疑せ... 致せ...

地本錦画版元

錦昇堂

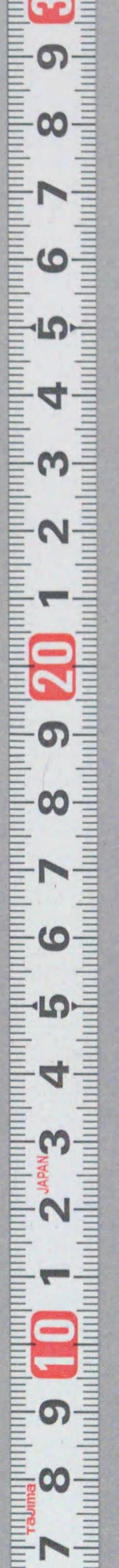
惠比壽屋庄七梓

東都照降街北側



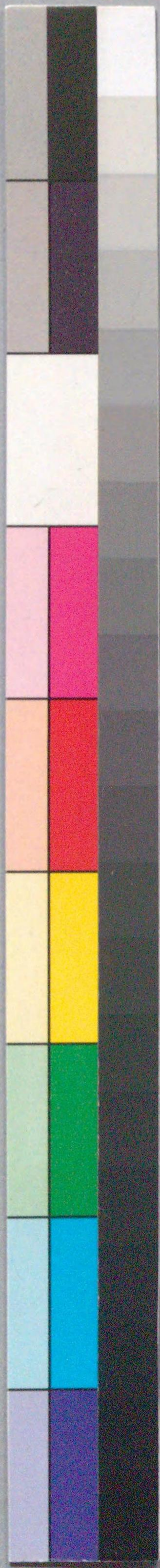
国立国会図書館 釜ヶ淵水増石川 3編 208-734

ガラス使用



208
734





国立国会図書館

釜ヶ淵水増石川 3編 208-734



ガラス使用

